

令和5年度 第1回 富良野市上下水道事業経営審議会 議事録（要点筆記）

開催日時 令和5年8月21日（月） 午後1時00分～午後2時40分

開催場所 富良野市複合庁舎 文化会館会議室B

出席者 【委員】 杉谷久己、吉中文也、長田壽弘、糠谷 諭、早川英剛、平間早苗、山本智久、長谷川一也、小玉將臣、高田義博（計10名）

（欠席：年代哲也、高橋 静、小石川 享）

【事務局】 北川建設水道部長、菅原上下水道課長、堀口業務係長、鈴木水道施設係長、香川下水道施設係長（計5名）

《上下水道課長の進行で開会》

○辞令交付

○市長あいさつ

本市の水道事業は昭和39年に通水開始され59年経過、下水道は富良野処理区が平成2年、山部処理区が平成14年に供用開始され33年目、21年目を迎えている。

人口減少、少子高齢化による使用水量の減少、コロナの影響による観光客の減少、宿泊施設等の休業により令和2年度から令和4年度の料金収入は大幅に減少となった。

各施設の機械、電気設備や配水管の老朽化が進み修繕や更新を実施しているが、料金収入の減少や国の交付金削減などの状況から更新にも遅れが生じている状況である。

下水道事業は、令和4年度から地方公営企業法を適用し企業会計へ移行しており、令和6年度からは、簡易水道事業が水道事業と会計統合を行う予定となっている。

今後も財政収支状況を見極めながら更新事業を実施し、安全安心な水道水の供給と環境衛生の向上に努めていきたい。

本日の審議会では諮問事項はないが、今後料金改定の必要性も含めご審議いただくことも想定されるので、各事業の現況についてご理解をいただき、今後の事業継続に向けた意見交換をお願いしたい。

○事務局の紹介及び審議委員の自己紹介

【事務局より】

- ・本審議会は、条例第6条第2項の規定により過半数の委員が出席していることから、成立していることを報告する。（13名中10名出席）

○役員選出

【事務局より】

- ・役員選出は条例第5条第1項により、会長、副会長を置き、委員の互選によるとされているが、意見はあるか。

（前回の会長・副会長の確認、事務局案の確認について発言あり）

事務局：事務局案としては、引き続き会長は社会福祉協議会 小玉さん、副会長は商工会議所 年代さんに担っていただきたいと考えている。

（委員からの異議等なく、承諾される。）

～以降、小玉会長が議事進行～

会長：本審議会では、市長からの諮問事項はないため、議案にある報告事項について事務局より説明いただき、各委員からの質疑等を求め進行していく。

○議事

報告事項1 審議会の役割（課長より説明）

◆委員からの質疑等なし

報告事項2 上下水道事業の概要について（課長、各担当係長より説明）

- ・第6次富良野市総合計画（中期計画）における上下水道事業の位置付けについて
- ・水道事業、簡易水道事業及び地域自立型水道（水道組合）について
- ・下水道事業について
- ・水道事業、簡易水道事業、下水道事業の経営状況の説明について
- ・経営戦略の検証について（水道事業）

《質疑・意見交換》

【委員】

経営状況としては、収益的収支は利益がでていますが、資本的収支や計画的な修繕ができていない。単年度収支が賄えていない状況で、今後の計画的な修理や更新をしていく予定はあるか？事故が起きた時だけの対処となっているとすれば、緊急事態が発生する可能性が高くなってしまっているのではないかと。

【市】

通水開始から59年が経過し、水道管の耐用年数は40年で約2割が相当古くなっている。総延長が140kmあるので、経過年数で順次更新をするのではなく、過去の漏水修繕箇所やの漏水調査の結果を参考に優先順位をつけて更新していきたい。予算組みの中で可能であれば重要給水拠点や40年以上経過した箇所の劣化診断などを実施したいと考えている、また、管だけではなく、水源施設の電気設備も耐用年数を経過しており機器の更新となると非常に高額な事業費となるのでどちらを優先すべきか判断が難しい。水源の設備更新まで考えると料金を大幅に上げないとならない状況が見える。物価高騰もあり市民生活が苦しい中で、水道料を値上げするとはなかなかできず、令和4年度、令和5年度は一般会計から借入している状況。ホテルがフル稼働すれば料金収入の回復を望まれるので、今値上げすべきか判断が難しいところである。

【委員】

ホテルは人材不足からフル稼働しておらず、また人口はどんどん減少していることから難しい局面ではあるが、市民生活に直結するので以前からもいわれていると思うが、計画的に更新していかなければならないのでは。

【市】

全道の市の中で富良野市の水道料金高い方から見て32市中20位で、決して高い方ではない。他市も値上げを検討しており、富良野市も料金を改定する時期になってきている。

更新計画について内部で相当議論しているが、かなりの事業費となるため再考している段階であり今は公表できる段階ではない。

まずは現状を知ってもらいたい。厳しい状況であることを広報で市民に周知したい。みなさんには、この2年間の任期のなかで論議していただくことになるかと思う。

【会長】

コロナによる観光客の落ち込みがこういうところに影響があったと感じた。観光客が戻ってきているので今年、来年あたりで収益的にどこまで改善するか、一般会計からの借入をしなくても運営できるようになればいい。当面は厳しいと思うが料金アップもなかなか難しい。見極めながら皆さんと協議していかなければならないと思う。

【委員】

水道管が老朽化すると水道水が汚れ、人体に影響があるのではないかと。

【市】

老朽化により人体に影響がでることは無い。過去に石綿管を使用していた箇所もあったがすべて更新済、鉛の管も使用されていないので、人体に影響のある水道管はない。

【委員】

「老朽化対策や維持管理費の増加が見込まれる」と書かれている一方で「維持管理の削減に努める」と書かれている。逆行している気がする。それだけ厳しいのかとは思いますが。

【市】

原油高や円安で電気代が高騰している。市で一番電力を消費しているのは水道、下水道である。下水道は太陽光発電を行い再生可能エネルギーによりCO2削減を目指しているが、今後、その水道施設、下水道施設に再生可能エネルギーを使っていくかが今後のキーワードとなる。それで少しでも維持管理費を削減できればと考えている。その他の経費も値上げとなっており、削減も限界が来ている。

【委員】

多少は料金の見直しも必要ではないか。切羽詰まって一気に値上げとなれば不満がでる。

【委員】

いつから料金改定していない？

【市】

平成22年に12%位改定している。

(注：平成26年、令和元年に消費税率の改定に伴う使用料の変更あり。)

【委員】

これまで値上げしてこなかったのでは場合によっては手遅れになってしまう可能性があったのでは。

【市】

10年に1度の見直しが目安で、改定のタイミングはあったが、当時、北の峰地区のリゾート開発の計画があり、その料金収入があれば内部留保が増えていく計算であった。その計画が崩れてしまい現在の厳しい状態となっている。

【委員】

水道も値上げするのと言われるだろうが、値上がりしたなかでも頑張ってもらわないと、水道事業ができなくなってしまうのでは。自分は地下水を利用しているが、何年かに一度掃除するなど費用をかけて維持している。それから見れば、市の水道料金の方がずっと安いと思う。

【市】

水は人の手をかけて供給していることを理解していただき、蛇口をひねれば無料で水が出ているわけではないことを広めていきたい。いずれにしても料金改定は目の前にある。

【委員】

電気ではメーターの 95%、富良野で 90%がスマートメーターとなっている。今後水道も自動検針になっていくと思うが検討状況は。また、検針も 2 か月に 1 回の自治体もあるが検討状況は。

【市】

スマートメーターは、漏水がすぐ見つかる、高齢者の見守りにも利用が考えられるなどのメリットもあり全国的にも広がっている。富良野市で実証実験や導入シミュレーションをしたところ、現在のところ経費削減につながらない結果となっている。富良野市は、検針員を確保できている状況で、隔測表示器・検針票をどうするかは課題もあり、引き続き他自治体の事例を見て考えていきたい。

また、過去に 2 か月検針をしていたが、漏水がわかるまで時間がかかってしまうため、1 か月検針にした経過があり、2 か月検針にする予定はない。

○その他

- ・ 次回の開催予定はないが、市長からの諮問事項が生じた場合に開催案内する。
- ・ 団体内での異動などにより役員が変更となる場合は連絡してほしい。

閉会（14 時 40 分）

【傍聴者なし】